



長井市の循環型社会づくりの経験共有

(特非) パルシック

パレスチナ西岸地区ジャマインにおける 廃棄物の再利用を通した 地域循環型農業モデル形成事業

一般助成

1年目

実践

環境クラブの生徒たちを
対象にワークショップを
実施した回数

9回

女性組合の女性たちを
対象にワークショップを
実施した回数

6回

活動の全体目標に
対する達成度

33%

課題

占領下で物流が不安定かつ空地へのゴミの集積が深刻な当地において、生ゴミを用いた有機堆肥による作物栽培を通して、ゴミ減量と環境意識醸成、循環型社会形成を目指す。

活動内容

- 地域の女性組合会員29名がグループをつくり、野菜・ハーブ栽培用に、農業専門家の指導の下、生ゴミを用いた有機堆肥作りに取り組んだ。
- 現地教育省の承認を受け、中等学校の生徒27名が環境クラブを立ち上げ、生ゴミを用いた有機堆肥作りやワークショップを通し、ゴミの分別や3Rについて学んだ。
- 山形県長井市レインボープラン推進協議会より講師を招き、循環型社会づくりの経験を共有するワークショップを開催した。



女性組合の生ゴミを用いた
有機堆肥作り

今後の課題

有機堆肥の生産量を増やしていくことが課題である。そのために、簡易堆肥舎を建て年中生産できるようにすること、生ゴミの回収範囲を広げること、地域の農家から農業廃棄物の提供を受けることを目指し取り組む。

成果と工夫した ポイント



成果

環境クラブの27名、女性組合の29名が生ゴミを使った有機堆肥作りに参加し技術を習得するとともに、有機堆肥作りを通して、生ゴミの有用性を体的に学んだ。また、地域の106名が3Rの重要性について認識した。

工夫

有機堆肥の材料を増やすため、家庭の生ゴミだけでなく地域で大量廃棄されるオリーブの搾りかすも採用した。